

## 9章 定期の点検・整備のしかた



### 警告

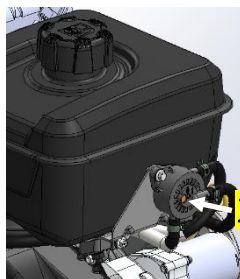
- 点検・整備は、交通の危険がなく車輛が倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所で、クローラに歯止めをしてから行なってください。守らないと、転倒などの事故をおこすおそれがあります。
- 作業機を地面と接するまで降ろす。
- モア回転スイッチが「中立」の位置にあるか確認し、クラッチレバーが「切」の位置にあるか確認する。
- エンジンを止めて、キーを抜く
- 夏場炎天下での作業後などの高温環境下での運転後の燃料タンク内は、圧力が高まっていることがあります。平坦な場所で燃料キャップを少しゆるめて燃料タンク内と外部の気圧差を取り除いてください。燃料が噴き出し火災、やけどの原因となります。  
傾斜地では燃料キャップをゆるめないでください。
- 半年毎に定期点検・整備を受け、各部の保守をしてください。特に油圧ホースなどのゴム類や電気配線は2年毎に交換してください。守らないと整備不良による事故や機械の故障をまねくおそれがあります。
- 点検・整備・修理をするときは、必ずエンジンを停止してください。
- 点検・整備などで取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。守らないと、機械に巻き込まれて傷害事故をおこすおそれがあります。

点検・整備を毎日行なうことにより、機械の性能が十分発揮され、安全で快適な作業が行なえます。機械の整備不良による事故などを未然に防止するために、半年毎に販売店で定期点検・整備を受け、各部の安全を確保してください。

特に油圧ホースなどのゴム類や電気配線は2年毎に交換するようにして、常に機械を最良の状態安心して作業が行なえるようにしてください。

火災の防止や整備性の確保のため、作業後は毎回、本機にたまった刈草・ゴミを清掃してください。

### [ 取り扱い注意 ]



上図矢印で示すエンジン燃料ポンプのストレーナ部分へ直接高圧洗浄の液を掛けたり、圧縮空気を当てることによる清掃は絶対に行わないでください。燃料ポンプが破損する恐れがあります。汚れはやわらかくきれいな布等でやさしくふき取ってください。

## 9章 定期の点検・整備のしかた

### 1. 定期点検一覧表

#### 本機

○ 点検 ● 交換

実施項目	アワメータ表示時間 50 時間目	100 時間目	150 時間目	200 時間目	250 時間目	300 時間目	350 時間目	400 時間目	450 時間目	500 時間目	550 時間目	600 時間目	参照 ページ
エンジンオイル	始業時から5時間毎に点検、必要に応じ補充 初回 10 時間、その後 200 時間毎に交換												54
	●				●				●				
油圧オイルフィルター	●				●				●				56
油圧オイル	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	●	55
エアクリーナエレメント	始業時か 10 時間毎に点検、50 時間毎に掃除												56
						●						●	
クラッチプリー・Vベルト	○	○	○	調整	○	○	○	調整	○	○	○	調整	60
	必要に応じて交換												
燃料フィルタ	1 年毎に点検、必要に応じて交換												57
キャブレタのセシメントボウル	1 年毎に清掃												57
スパークプラグ	1 年毎に清掃、必要に応じて交換												58
マフラ,スパークアレスタ	100時間毎に清掃												58
電気配線	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	59
グリスアップ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	60
吸気スクリーンの清掃	始業時、作業終了時毎に点検・清掃、作業中必要に応じて実施												
オイルクーラの清掃	始業時もしくは作業終了後毎												61
エンジン冷却部清掃	始業時もしくは作業終了後毎												62

#### モア

ナイフの摩耗	始業時毎に点検												64
ナイフ締付けボルト	ナイフ取付け作業毎												64
テンションプリー・Vベルト	○	○	○	調整	○	○	○	調整	○	○	○	調整	
	必要に応じて交換												61
グリスアップ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	60
ゴミ、草などの堆積清掃	始業時毎に点検・清掃												

### 2. 燃料・オイル・グリスについて

燃料	(F)	自動車用無鉛ガソリン	6.1 ℓ
エンジンオイル	(E.O.)	10W-30 SF クラス以上, 使用環境 27℃ 以上の場合には 10W-40 推奨	1.05 ℓ
油圧オイル	(H.O.)	シバウラ HST オイル VG46	20 ℓ
グリス	(C.G.)	万能グリス No.2	適量

3. 燃料の点検・給油のしかた

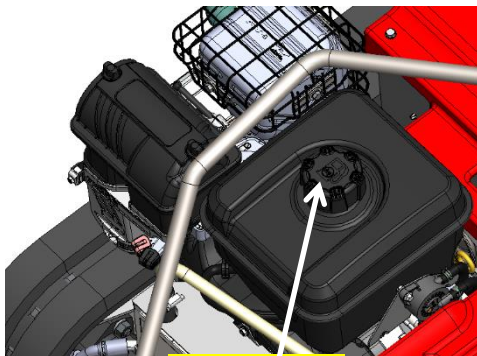
**!** 危険

- 燃料補給は、くわえ煙草や裸火照明は絶対にしないでください。
- 燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。
- エンジン回転中やエンジンが熱い間は、絶対に給油しないでください。守らないと、火災を起こすおそれがあります。

**!** 警告

- 夏場炎天下での作業後などの高温環境下での運転後の燃料タンク内は、圧力が高まっていることがあります。平坦な場所で燃料キャップを少しゆるめて燃料タンク内と外部の気圧差を取り除いてください。燃料が噴き出し火災、やけどの原因となります。

- (1) 燃料キャップを取り外す前に、エンジンを停止し少なくとも2分間は冷却してください。
- (2) 燃料キャップを外して残量が少ないようにしたら補給してください。



燃料キャップ

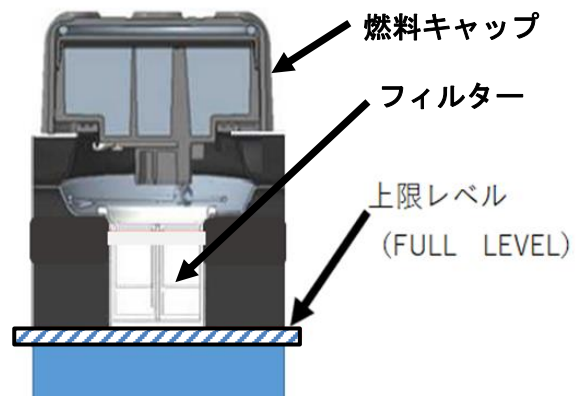
〔取り扱いの注意〕

- タンク内の燃料が少ないと、斜面走行時に燃料切れをおこす可能性があります。早めに給油してください。
- 給油するときは、ゴミが入らないようフィルタネットを外さないでください。フィルタネットにゴミが詰まったときはゴミを取り除いてください。

**!** 警告

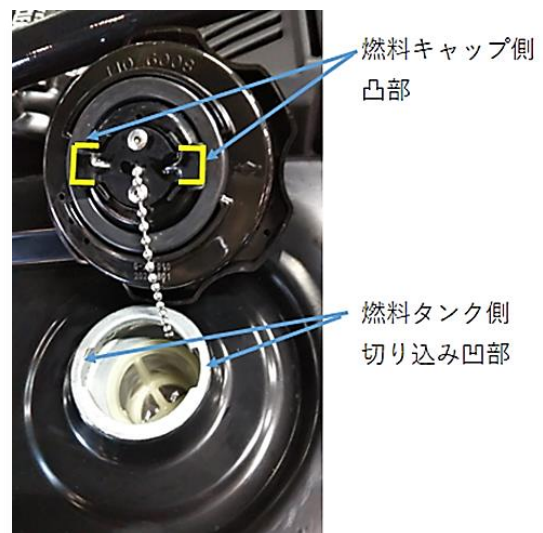
守らないと燃料漏れ・火災発生  
の危険性があります。

- (3) 燃料は上限レベル以上に給油しないでください。フィルター底面が上限レベルです。フィルターを外しての給油は上限レベルが確認できないため、行わないでください。燃料がこぼれた場合は、必ずふきとり、付近の蒸発を待ってエンジンを始動してください。



- (4) 燃料キャップの締め方

燃料タンク側の切り込み凹部と燃料キャップ側の凸部を合わせて燃料キャップが傾かないようにタンク口元と平行に締め付けてください。確実に締まっていないと燃料が漏れ火災の危険性があります。



- (5) 燃料の取り置きについて

使用する季節に合った燃料を補給してください。特に冬季に取り置きした燃料を夏季に使用しないようにしてください。作業後の再始動性が悪化します。又、一年以上経過した燃料や粗悪燃料は使用しないでください。

## 9章 定期の点検・整備のしかた

### 4. 各部のオイルの点検・交換のしかた

#### ⚠ 危険

- エンジン回転中やエンジンが熱いときは、絶対に注油しないでください。守らないと火災を起こしたり、ヤケドをするおそれがあります。

#### ⚠ 危険

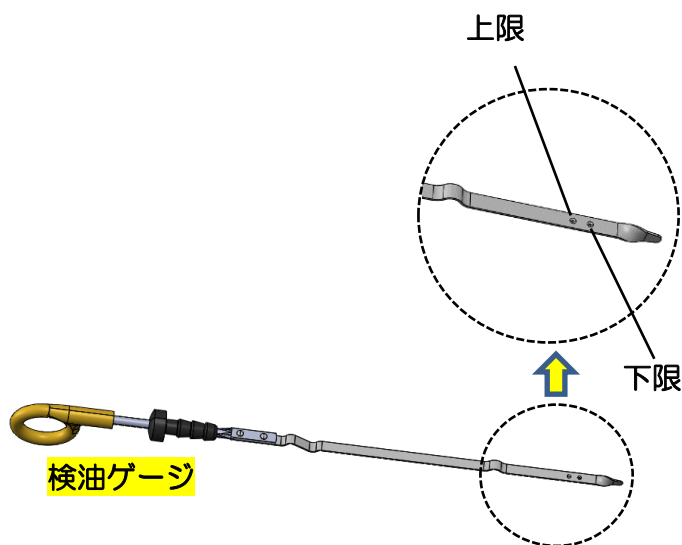
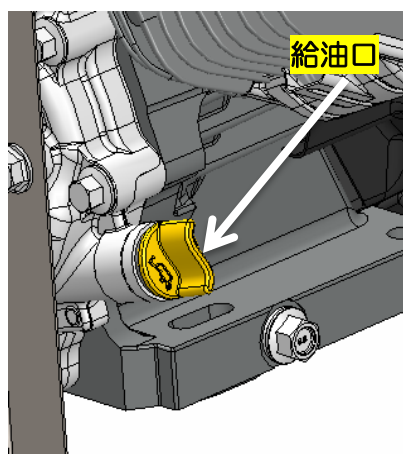
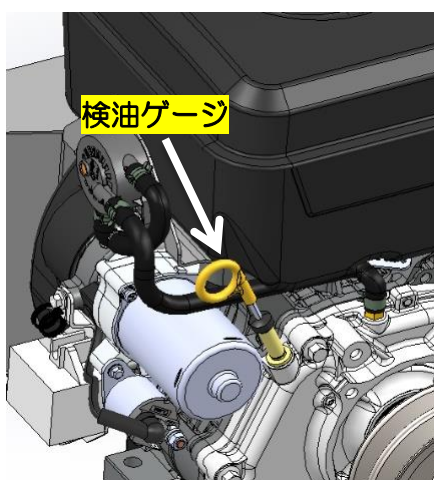
- エンジン停止直後のオイル交換はしないでください。守らないと火災を起こしたり、ヤケドをするおそれがあります。

#### ①エンジンオイル

〈点検〉5時間作業する毎に点検してください。

機械を水平な面に配置します。

検油ゲージを抜いて先端をきれいに拭いてから差込み、再び抜いてゲージの上限と下限の間にオイルがあるか調べます。不足しているときは、給油口より検油ゲージ規定量まで入れてください。



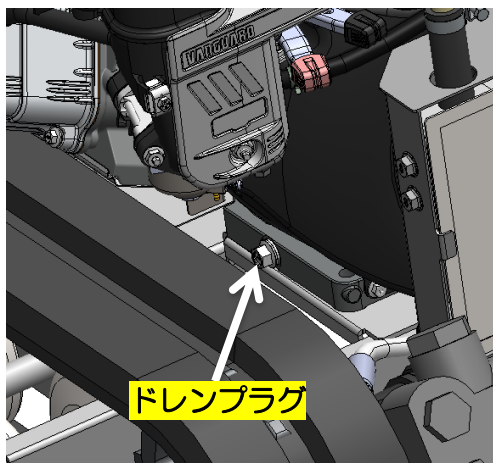
## 9章 定期の点検・整備のしかた

### 〔取り扱いの注意〕

- オイルの量は、エンジン始動前か冷えているときに調べてください。
- オイルの量を点検するときは水平な所に止め水平な状態で点検してください。
- 交換した排油は、絶対に川や下水道に流したりせず、専門業者に引き取ってもらうなどの適切な方法で処分してください。

### 〈交換〉

エンジン左下部のドレンプラグより油容器へ排出してください。完全にオイルが排出されたらドレンプラグを締め、新しいオイルを給油口から入れてください。



### ⚠ 注意

エンジンオイル交換は、最初は5時間、2回目以降は200時間毎、または1年毎のいずれか早い方にて交換してください。

給油にはロートを使用してこぼさないように少量ずつ給油してください。

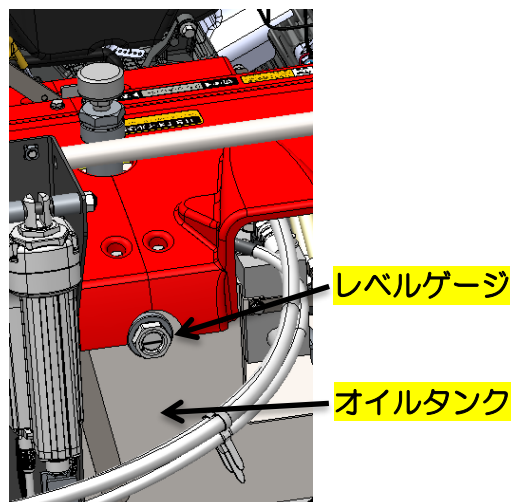
- エンジンオイルは必ずAPI SFクラス以上のものをお使いください。守らないとエンジン故障の要因になります。

### ②油圧オイル（クローラ、モア回転用）

300時間毎に交換してください。

### 〈点検〉

オイルタンクのレベルゲージの油面を確認し、中心より下にある場合は給油口より規定量（レベルゲージの1/2～2/3）まで入れてください。

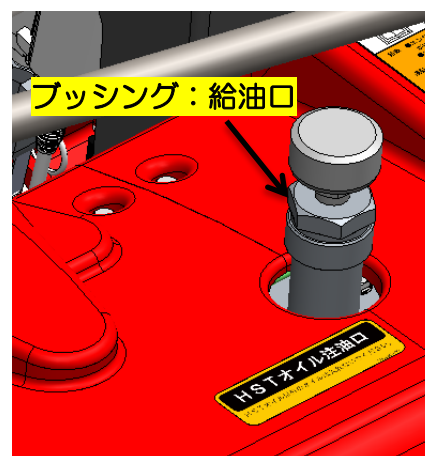


### 給油口の外し方

ブリーザ付ブッシングを反時計方向に回すと外れます。

ゴミ等異物を入れないように事前に周辺を清掃してから給油してください。

給油後、ブッシングを締め込んでください。



### 〈交換〉

オイルタンク底部のドレンボルトより排出してください。給油は上記の給油口より入れてください。



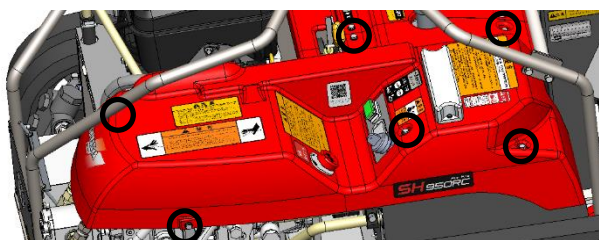
## 9章 定期の点検・整備のしかた

### 5. 各部フィルタ交換のしかた

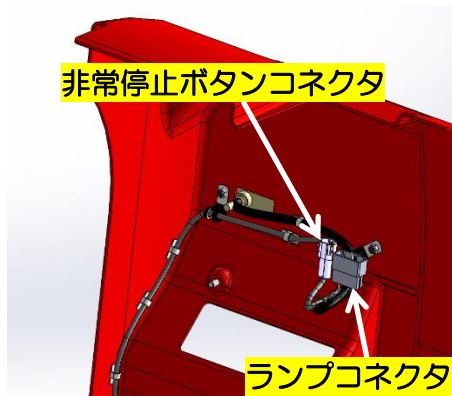
#### ①油圧オイルフィルタの交換のしかた

油圧フィルタはカートリッジタイプになっています。最初は50時間、2回目以降は200時間毎に交換してください。

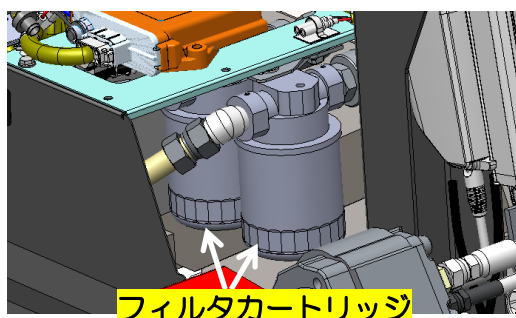
〈ボンネットの外し方〉



○印部の6本のボルトを右側ボンネットから外します。



ボンネットを少し浮かせてからランプコネクタと非常停止ボタンコネクタを本機のワイヤーハーネスから取り外します。



〈交換〉

- 油圧オイルを抜き取った後、フィルタのカートリッジを左側に回して外します。
- 新しいカートリッジの底面にあるゴムリングにオイルを薄く塗り、手で確実に取り付けてください。
- オイル交換後はレベルゲージの油面を点検し、不足している場合は補充してください。

#### ②エアクリーナエレメント

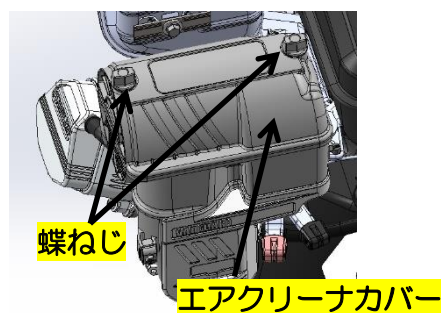
50時間毎に清掃を行ってください。

300時間毎に交換してください。

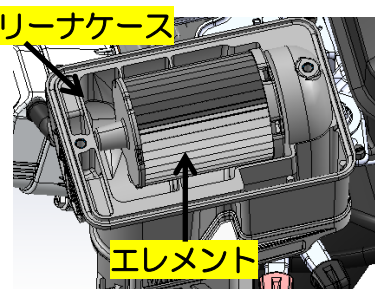
始業時に点検してください。

エアクリーナは吸入された空気に含まれている砂塵を取り、シリンダ、ピストンリングの摩耗を防ぎエンジンをいつも快調にする装置です。ホコリの多いところで作業するときは、規定時間になっていなくてもこまめに清掃を行い、必要に応じて交換してください。

〈清掃と交換〉



2つの蝶ねじを緩めエアクリーナのカバーを取り外します。



- エレメントをケースから取り外します。
- エレメントを軽くたたき、ほこりやゴミ、破片を取り除きます。
- エレメントを点検し、損傷が見つかった場合は交換します。
- 柔らかいブラシや掃除機を使用し、エアクリーナのカバーとケースからすべての埃やゴミを取り除きます。作業中、ゴミが内部に侵入しないように注意してください。
- エレメントをケースに戻し、カバーを蝶ねじでしっかり取り付けます。

## 9章 定期の点検・整備のしかた

### ③燃料フィルタ

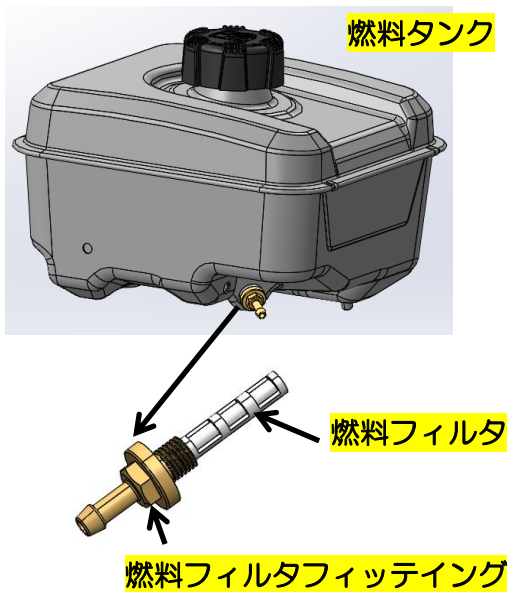
1年毎に点検・清掃を行い、必要に応じて交換してください。

タンクキャップ部から燃料を抜きとります。エンジンをかけ、燃料タンクが空になるまで運転します。

#### 警告

燃料システムを取り扱うときは以下の注意事項を厳守してください。

- こぼれた燃料は即座に必ず完全にふき取ってください。
- 点検・清掃中は十分換気を行ってください。
- 目の保護具を着用してください。
- 燃料・ウエス等は安全な容器に入れて適切に廃棄してください。



#### 〈点検と交換〉

燃料タンク内部にある燃料フィルタを点検します。

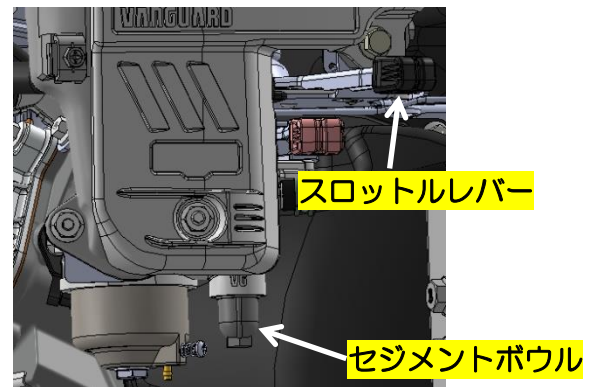
- 燃料フィルタフィッティングからホースを取り外し、六角ナットを回して燃料タンクから燃料フィルタフィッティングを取り外します。
- 燃料フィルタに埃やゴミがついていないか検査します。必要に応じて清掃を行い、損傷が見つかった場合は交換します。
- 燃料フィルタフィッティングの締付面にあるOリングに切れ、裂け、劣化がないか点検します。必要に応じて交換します。
- 燃料フィルタフィッティング、燃料ホースを元通りに組付けます。

### ④キャブレタのセジメントボウル

1年毎に点検・清掃を行ってください。

タンクキャップ部から燃料を抜きとります。エンジンをかけ、燃料タンクが空になるまで運転します。

スロットルレバーを一番右側の位置にして燃料バルブを閉じます。



#### 〈点検清掃・交換〉

- セジメントボウルをキャブレタから取り外します。Oリングとフィルタースクリーンが内部にあるので取り外します。
- セジメントボウル内のゴミ、異物等を完全に除去します。
- Oリングとフィルタースクリーンに、切れ、破損、劣化が無い点検します。必要に応じてクリーニングするか、取り替えます。
- フィルタースクリーンとOリングをセジメントボウルに取り付けます。
- セジメントボウルをキャブレタへ締め付けます。

## 9章 定期の点検・整備のしかた

### 6. スパークプラグの点検と交換

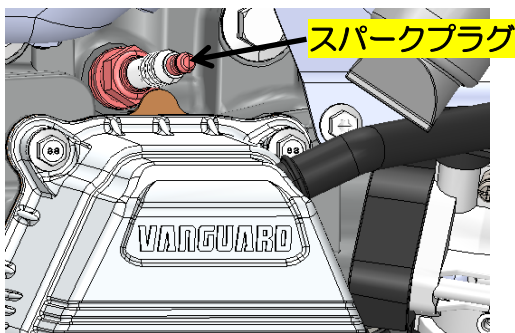
1年毎に点検・清掃を行い、必要に応じて交換してください。

始動が困難になったら交換してください。

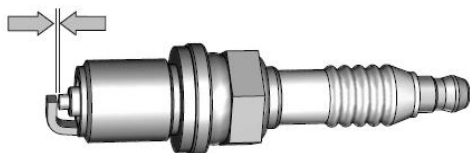


#### 注意

スパークプラグには、さまざまなサイズと熱価のものがああります。常に、指定された交換用スパークプラグを使用してください。さもないと、エンジンを損傷しかねません。



- スパークプラグケーブルをスパークプラグのターミナルから取り外します。
- スパークプラグの周辺を念入りに清掃し、燃焼室にゴミや破片が入らないようにします。
- 16mmのスパークプラグレンチを使用し、スパークプラグをシリンダヘッドから取り外します。
- ワイヤブラシ等を使用してスパークプラグを清掃します。電極が変形していたり、焦げていたりする場合、またはセラミック部にひび割れがある場合は新しいスパークプラグへ交換します。

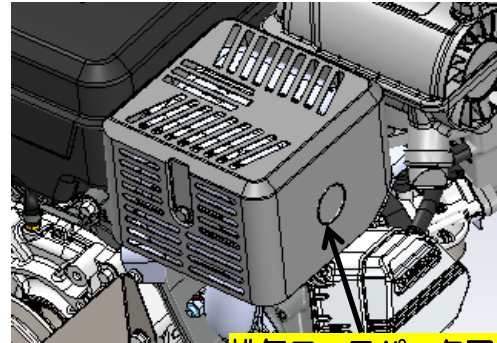


CHAMPION-RC12YX

- スパークプラグの電極ギャップが 0.76mmであることを確認します。必要な場合は注意深く電極を曲げて調節します。
- スパークプラグをシリンダヘッドに指で締めしてから 20Nm で締め付けます。
- ケーブルをターミナルへ差し込みます。

### 7. マフラ、スパークアレスタ

100時間毎に点検・清掃を行ってください。



排気口：スパークアレスタ

- 排気口の外周にある3つのねじを外してスパークアレスタ（金網）を取り外します。
- 硬い毛が付いたブラシを使い、スパークアレスタのスクリーンを清掃します。
- スクリーンを曲げたり、穴が開かないように注意して清掃します。
- マフラに穴やひび割れ、腐食、その他の損傷がないか点検します。必要に応じて交換します。
- マフラの取り付けフランジにひび割れ、破損、その他の損傷が無いか点検します。併せて締付ボルトに緩みがないか確認します。25Nm。
- スパークアレスタを排気口へ取り付け3つのねじで固定します。



## 9章 定期の点検・整備のしかた

### 8. パイプ類の点検について

#### 危険

- 燃料パイプ、油圧ホースなど痛んで燃料もれ油もれがないか、又、締付バンドがゆるんでいないかも点検してください。  
痛んでいなくても2年毎に交換してください。

### 9.電気配線の点検について

#### 警告

- 配線コードが他の部品に接触していないか、被服はがれや接触部のゆるみがないかを毎日作業前に点検してください。
- バッテリーや配線に付着している草や、ゴミは作業前、作業後にきれいに取り除いてください。守らないと、ショートして火災をおこす恐れがあります。

### 10. バッテリーの点検のしかた

#### 危険

- 本製品のバッテリーは密閉式です。液面の点検確認や補水は必要ありません。  
絶対に分解しないでください。  
守らないと液漏れによる引火、爆発によるヤケドなどを引きおこすおそれがあります。

#### 注意

- バッテリーの取り付けは、(+)側を先に取り付けてください。取り外すときは、(-)側から取り外してください。守らないとショートしてヤケドを負うおそれがあります。
- バッテリーの(+)とマイナス(-)を逆に接続すると本機が故障する恐れがあります。外したバッテリーを再び接続する際は、間違えないように注意してください。
- 端子部の錆やゴミ等異物をしっかり取り除いてください。
- 端子がゆるんでいる場合は、確実に締めつけてください。

#### [取扱いの注意]

- 急速充電はしないでください。
- バッテリーを交換するときは、必ず取扱い説明書の指定した容量のバッテリーを使用してください。
- 環境保全と資源のリサイクルのため、交換した古いバッテリーは、放置したり・捨てたりしないでください。必ず、バッテリーを購入した販売店に渡してください。資源としてリサイクルされます。

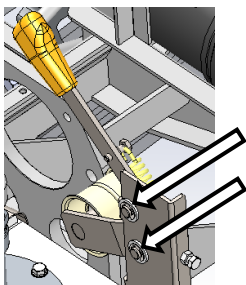
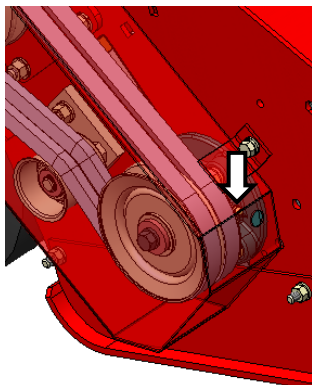
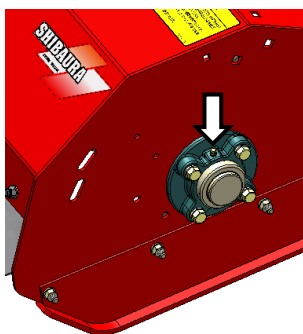
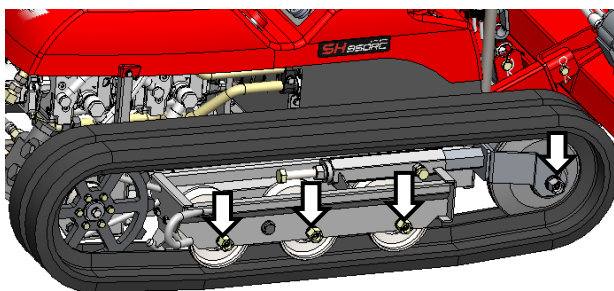
## 9章 定期の点検・整備のしかた

### 11. グリスアップ（注油）について

グリスアップは50時間毎に点検していただきますが、作業に入る前に各箇所のグリスの点検を行ない、必要ならばグリスアップしてください。

#### [取扱いの注意]

- グリスアップがおろそかになると、焼き付きや、錆の原因となり、回転や作動が円滑に行われなくなりますので、定期的にグリスアップを行ってください。
- グリス注入量の目安は、手動式グリスガンで2～3回レバー操作して注入される程度です。グリスがあふれ出たらすぐに注入をやめてください。



クラッチレバーの支点二箇所付近の汚れを予めスプレー式脱脂剤等できれいに落としてください。  
その後、支点部にスプレー式防錆潤滑剤を塗布してください。

### 12. Vベルトの点検・調整について

50時間毎に点検してください。



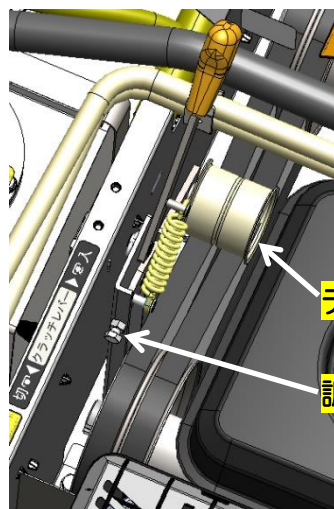
#### 警告

- エンジンが十分に冷えた状態で行なってください。守らないとヤケドを負うおそれがあります。
- 取り外したボンネット、カバー類は衣服が巻き込まれたりして危険ですので、点検・調整後は必ず取り付けてから作業してください。

#### ①各ベルトのサイズ

- HST 駆動ベルト  
バンドー化学：SB-40 W400
- モア駆動ベルト  
バンドー化学：SB-36 W400

#### ②HST 駆動ベルトの点検・調整



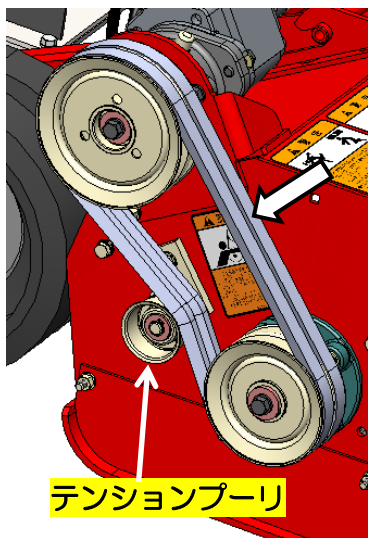
テンションプーリ

調整ボルト

- 左右のボンネットを取り外します。
- クラッチレバー「入」の状態ですべてのVベルトの中間部を下から約22N(2.2kgf)の力で押し、ベルトのたわみが $8 \pm 1$ mmであるか、又ベルトの破損・損傷していないか調べてください。
- 破損、損傷が見られる場合は交換してください。
- たわみが適正でないときは調整ボルトで張りを調節します。
- ③テンションプーリの点検
  - クラッチレバーを「切」の状態にします。
  - テンションプーリを手で回してスムーズに回転するか、ゴリゴリ感、異音がないか点検します。
  - スムーズに回転しない場合は交換してください。

## 9章 定期の点検・整備のしかた

### ④モア駆動ベルトの点検・調整



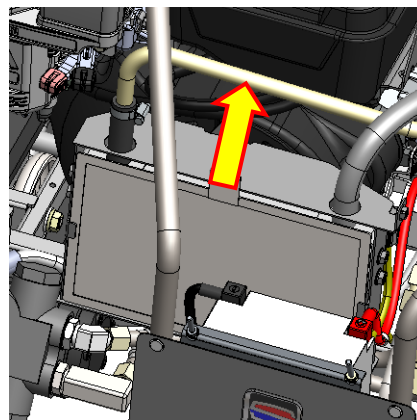
- ベルトカバーを取り外します。
- ベルトの中間部を約 39N(4kgf)の力で押して、ベルトのたわみが $5 \pm 1$ mmであるか、ベルトが破損・損傷していないか調べてください。
- 破損、損傷が見られる場合は交換してください。
- たわみが適正でないときはテンションプーリで張りを調節します。

### 13. 吸気スクリーン・オイルクーラの清掃について

#### ①吸気スクリーンの清掃

始業時・作業後毎に点検して刈草・ゴミなどを取り除いてください。

作業中もこまめに取り除くことをこころがけ、吸気スクリーンの表面に30%程度の付着が見られた場合には作業中であっても安全な場所に停車して清掃を行ってください。



- 吸気スクリーンを上方に引き抜いてください。
- 刈草などのゴミを落としてください。
- 吸気スクリーン内側にあるオイルクーラに付着したゴミはフィンを傷めないように取り除いてください。  
フィンの間は吸引式掃除機で清掃してください。  
圧縮空気を用いてゴミを押し込んでの清掃はしないでください。エンジン内部でゴミが詰まりオーバーヒートの原因となります。
- 吸気スクリーンに損傷がみられる場合はすみやかに交換してください。

#### [取り扱いの注意]

吸気スクリーンやオイルクーラに刈草などのゴミが付着していると、オーバーヒートの原因になります。始業前、作業後には必ず点検・清掃してください。綿毛や繊維の多い草等、乾燥した環境等、作業条件によって作業中にもこまめに点検・清掃してください。

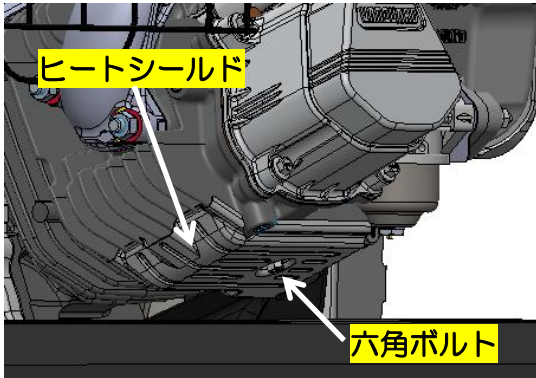
14. エンジン冷却部の清掃



**警告**

エンジンが十分に冷えた状態で行なってください。守らないとヤケドを負うおそれがあります。

始業時毎に清掃を行ってください。



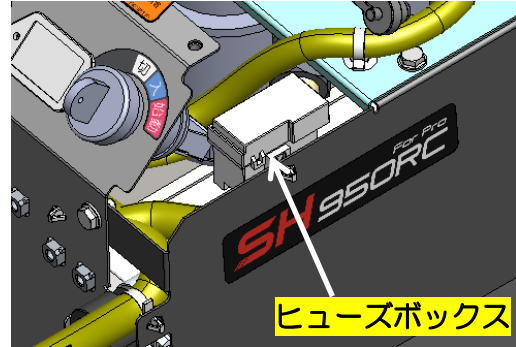
- 六角ボルト(対辺 8mm)を外し、シリンダーヘッドからヒートシールドを取り外します。
- シリンダフィンの間の刈草やゴミを丁寧に取り除きます。
- マフラの周辺の刈草やゴミを取り除きます。
- 付着物等の除去にあたり必要な場合は、ブラシに中性洗剤をつけ、砂粒や油性残留物を柔らかくしてから取り除きます。
- 六角ボルトを使ってヒートシールドを元通りに固定します。

15. ヒューズ、スローブローヒューズの点検



**警告**

- ヒューズおよびスローブローヒューズは、必ず規定容量(アンペア)のものを使用してください。守らないと、火災につながるおそれがあります。



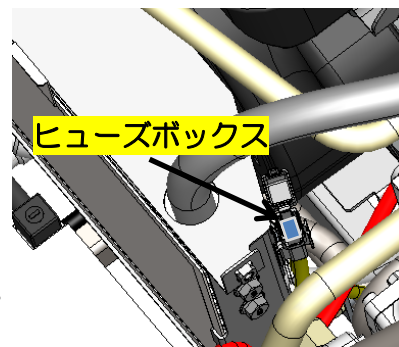
＜ヒューズの点検のしかた＞

- 右側ボンネットを取り外します。
- ヒューズボックスのふたを開けます。
- ヒューズを抜き取り点検します。切れていれば、規定容量のものと交換します。

**[重要]**

規定容量のヒューズと交換してもすぐ切れてしまう場合は、お買い上げいただいた販売店、または弊社営業所にお問い合わせください。

＜スローブローヒューズ＞



**[重要]**

指定容量以外のヒューズは使用しないでください。30A です。

**[参考]**

スローブローヒューズはヒューズの種類で万一、配線回路(常時通電している回路)へ過大電流が流れた場合、溶断して電流を遮断します。溶断したらお買い上げいただいた販売店、または弊社営業所にお問い合わせください。



16. ゴムクローラの点検について

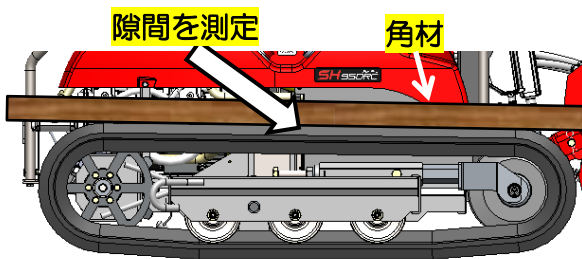


**警告**

- ゴムクローラの左右の張りを等しくしてください。
- ゴムクローラを張りすぎると抵抗により走行力が減少することがあります。
- 張りが弱い状態で運転すると悪路・傾斜地等でゴムクローラが外れる恐れがあります。

① ゴムクローラの張りの点検

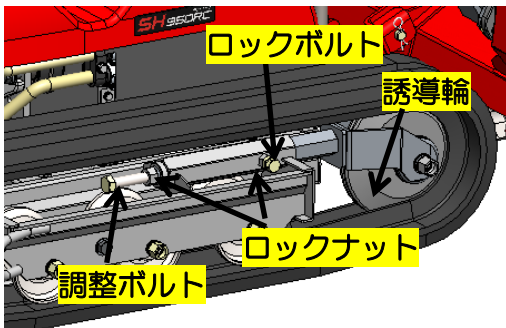
作業前、作業後にクローラの張り具合を点検し、必要に応じて調整してください。



- 本機を平坦で安定した場所に停止してください。
- クローラ上面に約 5cm の角材を渡し、クローラの中央部が自重でたわむ量が 5～10mm にあるか点検してください。

② ゴムクローラの張りの調整

- クローラ周辺に付着している泥などをとりのぞいてください。



- ロックナットを緩めてから、ロックボルトを緩めます。
- 調整ボルトを出し入れして張りを調節します。張りを強くする場合は時計方向へねじ込み、緩める場合は反時計方向へ回します。

- ロックナットを締め付けます。
- 車両を前後進させてなじませた後、張りを確認してください。
- 適正な張りになっていなければ、もう一度調整してください。

③ ゴムクローラの交換

- ジャッキ等でクローラ部を浮かせます。
- 調整ボルトをゆるめて誘導輪を後方へ大きくスライドさせクローラを取り外します。
- 交換後、接地させて張りを調整してください。

※ ゴムクローラの張り調整や交換を行った場合に本機の直進性が変わる場合があります。直進性の再調整が必要な場合には購入店または、弊社営業所へお問い合わせください。

④ ゴムクローラの点検

ゴムクローラがつぎの状態になったら補修または交換が必要です。購入店または、弊社営業所に依頼してください。

(1) ラグの高さ

摩耗が進行してもゴムクローラは使用可能ですが、滑りやすくなるだけでなく、けん引力が低下してきますので、残りのラグ高さが、5mm 以下になったら新品と交換してください。

(2) スチールコードの露出

ゴムの摩耗や損傷によりスチールコードが露出した場合は、新品と交換してください。

(3) ゴムクローラのスチールコードの切断

スチールコードの切断があるときは、すみやかに交換してください。放置すると、作業中に予告なしにゴムクローラが切れ、大きな事故の原因になります。

(4) カバーゴムの傷の補修

傷の長さ 30mm 以上、深さ 5mm 以上あるときは、補修をしてください。傷の大きさは小さくてもスチールコードが見えるときはすみやかに補修をしてください。放置すると水が浸入してスチールコードが錆びて切断することがあります。

(5) ゴムクローラの芯金の離脱

ゴムクローラの芯金が 1 箇所以上離脱したものは新品と交換してください。

17. ハンマーナイフモアの点検について



**警告**

- ハンマーナイフモアは高速で回転するので、バランスがくずれると異常振動が発生して作業者や周囲に危険となるばかりでなく車両の各部損傷の原因となります。異常振動が発生したらただちに運転を停止し、原因を確認して修理してください。守らないと事故・ケガ・機械の故障をまねく恐れがあります。
- ナイフの交換時など、モアの下部に手や体を入れる場合はナイフ軸の回転が完全に停止したのを確認後、落下防止金具を取り付けてから行ってください。守らないと事故・ケガをまねく恐れがあります。
- ナイフを交換するときは、エンジンを停止させナイフが回転していないことを確認してから行ってください。
- ナイフが破損・脱落している場合は必ず、新品と交換してください。ナイフは研磨して使用しないでください。ナイフに割れが発生する恐れがあり、大変危険です。
- ナイフ交換するときは、ケガをしない様に厚手の手袋などを使用し、十分注意してください。
- ナイフを交換する際には、必ず、メーカー純正品を使用してください。メーカー純正品以外の使用による故障・事故については保障の対象外となります。

- ①ナイフを交換する時は原則として全数新品に交換してください。やむを得ず一部を交換する場合は、必ず左右対称になるように交換してください。
- ②ナイフ締付ボルトが確実に締まっているか点検してください。ゆるんでいたら必ず増締めしてください。
- ③ナイフは両面刃を使用していますので、片面が摩耗したときは、2枚のナイフを左右に入れ替えてください。
- ④ボルト・ナットに著しい変形がある場合は、ボルト・ナットを新品に交換してください。
- ⑤外観点検を必ず作業前・作業後に行ってください。カバー類やモア本体に破損がないか確認してください。破損がある場合はすみやかに交換・修理してください。

[ナット締め付けトルク：14～20N.m]

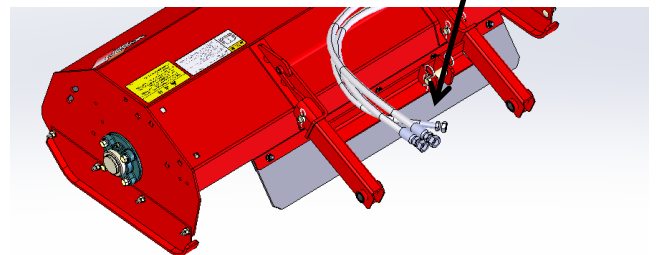
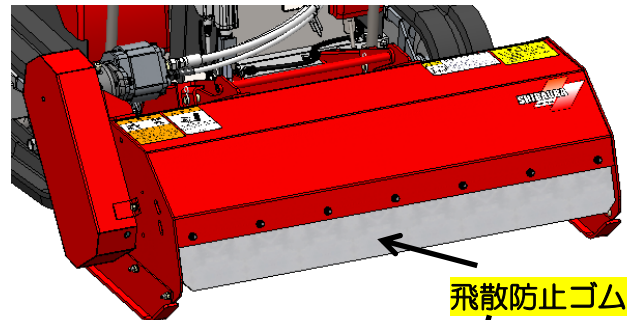
目安はナット座面着座から90度締付です。

18. 飛散防止ゴムの点検・交換について



**警告**

- 飛散防止ゴムは、草刈作業時に、石等の異物が本機周辺に飛散するのを防ぐ役割があります。変形・破損していると周囲に異物が直接飛散することになり、非常に危険です。



- ①飛散防止ゴムの切れ・変形や破損等を確認したら、ただちに作業を中止し、部品を交換してください。
- ②取り付けボルトにゆるみはないか確認してください。